

JSTQB Advanced Level Test Manager サンプル問題 解答(翻訳)

方針

ISTQBサイトに掲載されているサンプル問題の解答解説を翻訳する。

サンプル問題参照先

- Certified Tester Advanced Level Test Manager (CTAL-TM)
 - <https://www.istqb.org/certifications/test-manager>
 - ISTQBのテストマネージャー試験紹介ページ右側リンクよりサンプル問題をダウンロード
 - DL日時：2022/4/8
 - ファイル名
 - ISTQB-CTAL-TM_Sample-Exam-A-Questions_v1.3.1.pdf
 - ISTQB-CTAL-TM_Sample-Exam-A-Answers_v1.3.1.pdf



翻訳済みサンプル問題 解答解説

問1 : TM-1.2.1 (配点 3点)

解答

b,e

解説

- a) 正しくありません。TDDはユニットテストケースの設計から始まります。アジャイルプロセスでは通常、詳細な設計仕様はありません。
 - b) 正しい。パフォーマンス問題の30%は、Webサービスに関連して報告されています。これら（またはその一部）は、未定義のSLAが原因である可能性がある。
 - c) 正しくありません。統合テストレベルがない
 - d) 正しくありません。単体テストは、開発の下っ端にある
 - e)は正しい。パフォーマンスです。テストは実施しなければならない、10日目までにシステムが安定することはない
-

問2 : TM-1.3.1 (配点 2点)

解答

a

解説

- a) 正解
 - 1. ユーザーストーリーUS03-20の最大同時リクエスト数10,000に対して、最大許容応答時間10秒の性能テストが抜けている。
 - 2. ユーザーストーリーUS 02-20のテスト条件が抜けている
 - b) 正しくありません
 - c) 正しくありません
 - d) 正しくありません
-

問3 : TM-1.3.2 (配点 1点)

解答

a,d

解説

- a)は正しい。粗い粒度の試験条件を洗練させるための試験設計の質問は、回答するのに高額になる
 - b) 正しくありません。詳細なテスト条件の整備が大変になる（シラバス）
 - c) 正しくありません。粗い粒度のテスト条件を絞り込むテスト設計時の質問は、専門家が答えれば良い。
 - d) 正しい。詳細なテスト条件を指定することで、貧弱なテスト基盤の代わりとなり、欠陥防止に貢献することができる
 - e) 正しくありません。経営者は、一般的にそのレベルの詳細さを要求しない
-

問4 : TM-1.4.1 (配点 2点)

解答

a

解説

- a) 正しくありません。このリスク項目をカバーするかもしれないが、ネガティブテストであり、期待される結果を含んでいない。このリスク項目の探索的ネガティブテストとしては良いが
 - b) 正しくありません。完全に良い陽性の論理テストであるが、リスク項目をカバーしない。
 - c) 正しい。発生する入力があり、シナリオに沿った正しい期待される結果があり、リスク項目に関連する。
 - d) 正しくありません。期待される結果が間違っているので、正しくない。
-

問5 : TM-1.5.1 (配点 2点)

解答

a

解説

- a) 正しい。このリスクは、アプリケーションの中核的な機能に関するものである。
 - b) 正しくありません。非常に高い影響と高い可能性を持つテストは、このテストの前に実行されるべきです。
 - c) 正しくありません。このリスク項目が他のリスク項目とどのように関連しているかが分からないので、確実に正しいとは言えない
 - d) 正しくありません。影響度と尤度の組み合わせに基づいて、どのように工数配分を決定しているか分からないので、確実に正しいとは言えない。
-

問6 : TM-1.6.1 (配点 2点)

解答

b,e

解説

- a) 正しくありません。選択肢 B の状況、あるいは単にテストがブロックされただけで、リスクオーダー外のテストの実行を説明できる。
 - b) 正しい。02.019は02.010とは異なる要件を対象としています。
 - c) 正しくありません。テストの順序に関する問題を評価することは理にかなっていますが、その際にテストの実行を停止する必要はありません。
 - d) 正しくありません。不具合を発見することだけがテストの目的ではない
 - e) 正しい。リスクベースのテスト戦略では、高リスクのテストが低リスクのテストより優先されます。
-

問7 : TM-1.7.1 (配点 1点)

解答

b,e

解説

- a) 正しくありません。タイムリーに測定できなかった
 - b) 正しい シラバスより
 - c) 正しくありません。適時に測定できなかった
 - d) 正しくありません。テスト解析の進捗に関係する
 - e) 正しい。シラバスより
-

問8 : TM-1.8.1 (配点 1点)

解答

a

解説

- a)は正しい。シラバス1.3項による
 - b) 正しくありません
 - c) 正しくありません
 - d) 正しくありません
-

問9 : TM-1.8.2 (配点 2点)

解答

a, c

解説

- a)は正しい。品質リスク分析が正しかったかどうかを評価するために、欠陥情報をレトロスペクティブに分析したい
 - b) 正しくありません。実装時に実施することになっている
 - c) 正しい。エンロールは重要な要件領域であり、要件ベースのテスト戦略のもと、そのような領域で欠陥が見逃されていないか、テストレトロスペクティブで確認する必要がある
 - d) 正しくありません。これはテストクロージャの一部であるが、レトロスペクティブの一部ではない。
 - e) 正しくありません。これは、テストコントロールの一部である
-

問10 : TM-2.2.1 (配点 3点)

解答

d

解説

- a) 正しくありません。既婚者は現在の顧客ではないので（配偶者を裏切っていない限り）、請求書が正しく発行されているかどうかを気にする必要はないはずです。
 - b) 正しくありません。政府機関の職員は、アプリケーションのユーザーである職員を除いて、マッチングがどの程度うまく機能するかについて本当に気にしないでしょう（政府機関の職員であることとは関係ない）。
 - c) 正しくありません。ユーザーは、会社が適切な税金を支払っているかどうかについては、ユーザーが適切に請求されている限り、実際にはあまり気にしていない
 - d) 正しい。経営者や利害関係者は、顧客が満足し、会社が利益を上げ、法令を遵守するために、3種類のテストすべてに気を配らなければなりません。政府機関は、規則を遵守することに気を配ります。
-

問11 : TM-2.2.2 (配点 1点)

解答

c

解説

- a) 正しくありません。これも正しいが、プロジェクトマネジメントがテストに影響を与えるのではなく、テストがテクニカルサポートに影響を与えるということである。
 - b) 正しくありません。正しいが、テストがプロジェクトマネジメントの成果物にどのように影響するかについてであり、プロジェクトマネジメントの成果物がテストにどのように影響するかについてではない。
 - c) 正しい。テスト計画は、より大きなプロジェクト計画と整合していなければならない。
 - d) 正しくありません。要件はプロジェクトマネジメントの成果物ではないし、さらに、この記述は要件ベースのテスト戦略に従っている場合にのみ正しい。
-

問12 : TM-2.2.3 (配点 1点)

解答

b

解説

- a) 正しくありません。非機能リスクの中には、早期に軽減できるものもあるが、ライフサイクルの後半に軽減できるものもある
 - b) 正しい。シラバスより
 - c) 正しくありません。TAとTTAの両方に委ねられるテスト計画は一部だけである
 - d) 正しくありません。すべての非機能テストは機能テストに従う必要はない（ただし、認識されたりリスクに基づいて行う必要がある）
-

問13 : TM-2.3.1 (配点 1点)

解答

d

解説

- a) 正しくありません。テストは品質を測定するものであり、品質を向上させるものではありません（その後のデバッグは可能です）。
- b) 正しくありません。リスクタイプ（これらは両方とも同じリスクタイプであるが）と機能/非機能テストとの間には相関がない
- c) 正しくありません。プロジェクトリスクは、どのテストレベルを決定するのに役立つが、製品リスクも同じである。
- d) 正しい。シラバスより

問14 : TM-2.3.2 (配点 1点)

解答

c

解説

- a) 正しくありません。これらはリスクベースドテストの4つの活動である
 - b) 正しくありません。これらはリスク識別のための技術であり、分析プロセスの一部に過ぎない
 - c) 正しい。これらはシラバスで示された8種類の技法のうちの4つであるため
 - d) 正しくありません。これは、リスク項目の可能性に影響を与える要因の一つです。
-

問15 : TM-2.3.3 (配点 3点)

解答

c,e

解説

- a) 正しくありません。プロジェクトのリスクである（そして、どんな新興企業にとっても非常に現実的なものである）。
 - b) 正しくありません。プロジェクトリスクであり、品質リスクではない。また、クラウドコンピューティングの小売市場で利用可能なオプションの驚くべき範囲を考えると、その可能性は非常に小さい？
 - c) 正しい。ポイント計算はシステムの機能であり、機能的な正確さは品質の副特性である。
 - d) 正しくはない。確かにリスクはあるが、それはシステムの品質とは関係なく、むしろ提供される割引によるもので、具体的にはリリース後に発生しうる運用上のリスクである
 - e) 正しい。高い信頼性を約束しているのであり、信頼性は品質特性である
-

問16 : TM-2.3.4 (配点 1点)

解答

a

解説

- a) その通りです。どのようなレベルのリスクが軽減されていても、テストの有効性（欠陥の検出能力など）は常に高くありたいものである
 - b) 正しくありません。シラバスより
 - c) 正しくありません。シラバスより
 - d) 正しくありません。シラバスより
-

問17 : TM-2.3.5 (配点 1点)

解答

b

解説

- a) 正しくありません。シラバスより
 - b) 正しい。優先順位付けや労力配分をすべてテスター個人に任せたくはないし、不具合の発見もテスト（つまり優先順位付けや労力配分）がすでに始まってからでないと起こり得ない
 - c) 正しくありません。シラバスより
 - d) 正しくありません。シラバスより
-

問18 : TM-2.4.1 (配点 2点)

解答

b

解説

- a) 正しくありません。正解に記載されている理由により
 - b) 正しいです。成熟したアプリケーションでは、テストの主な使命は、アプリケーションが適切に動作し続けるという信頼を築くことです。自動化された回帰テストは、それを効率的に達成するのに役立ち、テストプロセスの改善とアプリケーションは整合しています。この成熟したアプリケーションの回帰テストを自動化するというアイデアは良いものですが、自動化は多くの不具合を発見するわけではありません。したがって、ミッションステートメントは、テストプロセスの改善や、成熟したアプリケーションの実際のテストニーズと一致していません。
 - c) 正しくありません。正解に記載されている理由から
 - d) 正しくありません。正解に記載されている理由から
-

問19 : TM-2.4.2 (配点 2点)

解答

c

解説

- a) 正しくありません。テスト環境の準備に関する問題は、典型的なテスト関連のプロジェクトリスクである
 - b) 正しくありません。テストスタッフの稼働率や資格に関する問題は、テストに関連する古典的なプロジェクトリスクである
 - c) 正しい。これは重大なプロジェクトリスクではあるが、テストに関連したプロジェクトリスクではない。テストチームがマーケティングチームから必要とされるもの（要件）は、すでに完成している
 - d) 正しくありません。ツールの準備に関する問題は、典型的なテスト関連のプロジェクトリスクである
-

問20 : TM-2.4.3 (配点 1点)

解答

b

解説

- a) 正しくありません。これらの例のうち少なくとも2つは不一致であるため
 - b) 正しい。なぜなら、分析的リスクベースのテストは、リスクベースのテストの優先順位付けを含み、方法論的テストは、チェックリスト（この例では、サイト上のリンクをたどることを含む）に従い、プロセス準拠のテストは、アジャイルプロセス準拠を含み、コンサルティング的テストは、外部からの指示を受けることを含むからです。
 - c) 正しくありません。これらの例のうち少なくとも2つが不一致であるため
 - d) 正しくありません。なぜなら、これらの例のうち少なくとも2つは不一致だからです。
-

問21 : TM-2.4.4 (配点 2点)

解答

b

解説

- a) は正しくない。この場合、準拠しているプロセスはアジャイル方法論であり、IEEE 829ではない。
 - b) 正しい。アジャイルライフサイクルは軽量のドキュメントを重視する
 - c) 正しくありません。IEEE 829 は文書化を重視するため、文書化に関するアジャイル哲学や反応テスト戦略とは相容れない。
 - d) 正しくありません。リアクティブテストにも憲章があり、アジャイルライフサイクルにも受け入れ基準がある。
-

問22 : TM-2.5.1 (配点 3点)

解答

a,b

解説

- a) 正しい。推定に過去の平均を考慮することは、推定手法として認められている
 - b) 正しい。経験ベースのテストを管理するための一般的な手法であり、見積もりにも影響する
 - c) 正しくありません。シラバスで引用しているように、アジャイルのベストプラクティスに従う開発者は、システムテストの前に半分もの不具合を取り除くことができます。
 - d) 正しくありません。アジャイル手法は、テスト文書を含む非常に詳細な文書化を避けます。
 - e) 正しくありません。シナリオには、この再利用の必要性や可能性を示すものは何もない。
-

問23 : TM-2.5.2 (配点 1点)

解答

a

解説

- a) 正しい。欠陥の修復時間はテストを遅らせるかもしれないが、テスト工数は必要ない
 - b) 正しくはない。成熟したテストプロセスであっても、労力が高ければ長く続く可能性がある
 - c) 正しくありません。詳細なテスト条件は労力を必要とする
 - d) 正しくありません。高品質なシステムは、より多くのテスト労力を必要とする
-

問24 : TM-2.6.1 (配点 1点)

解答

a

解説

- a)は正しい。それは、テスト進捗監視メトリクスの一つです。すべてテストメトリクスですが、違うことに使われます。
 - b) 正しくはない。そのメトリクスの危険な使い方を指している
 - c) 正しくありません。本当にテスト解析の進捗を監視しているのか
 - d) 正しくありません。計画や管理の進捗を監視するための指標である
-

問25 : TM-2.6.2 (配点 1点)

解答

b

解説

- a) 正しくありません。間違ったカバレッジと実行されたテストの数の組み合わせ
 - b) 正しい。テスト進捗メトリクスの5つの主要な次元のうち3つに言及している
 - c) 正しくありません。テスト進捗のモニタリングに使用される可能性が低いpeopleカテゴリを含む。また、peopleとproductはテスト進捗メトリクスの5つの主要な次元にリストされていない。
 - d) 正しくありません。テスト進捗のモニタリングに使用される可能性が低い「人」のカテゴリが含まれている
-

問26 : TM-2.6.3 (配点 1点)

解答

c

解説

- a) 正しくありません。正しいが、分析を伴わないので、直感だけで動いてはいけません。
 - b) 正しくありません。能力への着目点が間違っている
 - c) 正しい。テスト進捗モニタリングの様々な側面を利用し、テストカバレッジと費やされた労力の、おそらく本当の理由を調べ始め、製品リスクを残すことになる。
 - d) 正しくありません。それ自体は正しいが、リスク情報を利用していない。
-

問27 : TM-2.7.1 (配点 1点)

解答

b

解説

- a) 正しくない
 - b) 正しい。BAを育成することは、より質の高い要求事項を書くことにつながるので、予防コストである。品質リスク分析は、欠陥が見つからなくてもこのコストは発生するので、検出コストである。テスト中やリリース前に発生する欠陥関連の品質コストは、回避できるコストでも内部失敗コストである。顧客クレームは、将来の売上減少につながるので、外部失敗コストである
 - c) 正しくありません。
 - d) 正しくありません。
-

問28 : TM-2.7.2 (配点 2点)

解答

b

解説

- a) 正しくありません。平均値を足して合計を計算することはできませんし、予防費も与えられていません。
 - b) 正しい。\$5,000 - (\$150 + \$250) = \$4,600
 - c) 正しくありません。品質コストは、品質に関連するあらゆる活動の価値を計算するために使用することができ、世界中の産業で使用されています。
 - d) 正しくありません。テストに伴う検出や内部不良の平均コストを加算するのではなく、差し引いて正味の潜在的な節約額を計算する必要があります。
-

問29 : TM-2.8.1 (配点 1点)

解答

d

解説

- a)は正しくない。テスト委託先の選定にコスト以外の要素が用いられた形跡はない。
 - b) 正しくありません。チーム間の明確な業務分担がない
 - c) 正しくありません。このオフショアチームの使用に関する決定は、トップダウンで行われたため、当初から信頼が損なわれていた
 - d) 正しい。現場担当者がコミュニケーションチャネルとして機能する
-

問30 : TM-2.9.1 (配点 1点)

解答

a

解説

- a) 正解です。シラバスより
 - b) 正しくありません。規格ではないので、テストカバレッジの基準に関するガイダンスを提供しない。
 - c) 正しくありません。一般的なプロセス改善モデル - テストカバレッジ基準のガイダンスを提供しない
 - d) 正しくありません。一般的なプロジェクト管理のフレームワーク - テストカバレッジ基準のガイダンスを提供しません。
-

問31 : TM-3.2.1 (配点 1点)

解答

a

解説

- a) その通りです。私たちは、状況を評価し、その評価に基づいて将来の行動を決定するために基準を使用しています。これは、シラバスがマネジメントレビューに属すると述べている行動です。
 - b) 正しくありません。定義された基準に照らしてチェックしているのは確かだが、適合性を独自に評価することではなく（チェックはプロジェクトチームが行っている）、「証拠」がチェックされていることを示すものはない。
 - c) 正しくありません。この記述はある意味正しいが、経営陣の仲間による意思決定の要素が欠落しており、これが監査ではなくマネジメントレビューである主な理由である
 - d) 正しくありません。基準の合否判定は行われるかもしれないが、Bと同様、適合性の独立した評価は行われな い。
-

問32 : TM-3.3.1 (配点 3点)

解答

c

解説

- a) 正しくありません。経営者は軽量なプロセスを望んでおり、要件（場合によっては設計も）はすでに完成しているからだ
 - b) 正しくありません。テスト作業成果物だけを具体的に含んでいるので、正解とは言えない
 - c) 正しい。インフォーマル・レビューは、利益を達成するための軽量なアプローチである
 - d) 正しくありません。レビューは、テストマネージャを含む、プロジェクトの様々な参加者が計画し、管理することができる
-

問33 : TM-3.3.1 (配点 1点)

解答

c

解説

- a) 正しくありません。1つ以上の不一致があるため
 - b) 正しくありません。1つ以上のミスマッチがあるため
 - c) 正しくありません。1つ以上のミスマッチがあるため
 - d) 正しい。Web制作やクラウドコンピューティングの理解は、プロジェクトの技術的な要素に関連するものである。細部へのこだわりは、レビュー参加者に必要な性格的特徴である。レビューに参加した経験により、レビューの手順に関する知識が得られる。金融アプリケーションは残高を管理するものであり、ポイント残高の管理に関連する。
-

問34 : TM-3.4.1 (配点 1点)

解答

a,c

解説

- a)は正しいです。なぜなら、レビューと動的テストに費やした総時間と、両方で見つかった欠陥の数を計算し、その数字を動的テストだけの数字と比較することができるためです。
 - b) 正しくありません。効率計算には関係ない
 - c) 正しい。なぜなら、レビューと動的テストに費やされた総時間と、両方で見つかった欠陥の数を計算し、それらの数を動的テストだけの数と比較することができるからです。
 - d) 正しくありません。シナリオに具体的に書かれているので、これに惹かれるかもしれません。重度の不具合だけをカウントするのは関係ないですが
 - e) 正しくありません。シナリオに具体的に書かれているので、それに引きずられるかもしれない。ステータスを考えるのは関係ない。テスト時間が欲しい
-

問35 : TM-3.5.1 (配点 1点)

解答

a

解説

- a)は正しい。不具合の根本的な原因を見つける必要がある
 - b) 正しくありません。すべての利害関係者がレビューの目的に同意しなければならない
 - c) 正しくありません。"罰"は助けにならない。建設的であれ!
 - d) 正しくありません。非難は助けにならない。建設的であれ!
-

問36 : TM-4.2.1 (配点 2点)

解答

b

解説

- a) 正しくありません。テスト直後の再テストは意味がない。NEWはOPENと同義であることが多い。状態Zがブロックされていた場合、この状態を抜けることはできない
 - b) 正しい。最初のトリアージと割り当ての両方で、欠陥の拒否が決定されることがある（そのため、REJECTEDに遷移する）。テストで欠陥が修正されていないことがわかれば、REOPENEDに移行する。最初のトリアージと割り当ての両方が、不具合を延期することを決定する場合がある（おそらく後のリリースに延期される）。
 - c) 正しくない。重複する欠陥は再割り当てを必要としない。状態Yとして未確認は、この状態を離れることができないので、機能しない。状態Zは、いくつかの方式で終了させることができる。
 - d) 正しくありません。検証済みとテスト済みはしばしば同義語であり、両方は必要ない。状態Yは、この状態を離れることができないので、動作しない。状態Zをfixedとしても機能しない - fixedはresolvedと同義であり、状態Zから'CLOSED'へと移行できない。
-

問37 : TM-4.2.2 (配点 1点)

解答

c

解説

- a) 正しくありません。既に修正された不具合を延期するのは意味がない
 - b) 正しくありません。確認テストは終局状態ではない
 - c) 正しい。判明している不具合に対応する
 - d) 正しくありません。不具合報告の前に進行中であることはありえない
-

問38 : TM-4.3.1 (配点 2点)

解答

b,c

解説

- a) 正しくありません。第三者は、これらの欠陥報告が動的システム試験から来るものであることを既に知っている
 - b) 正しい。これらの手順（と実際の結果）は、彼らが欠陥を理解するのに役立ち、期待される結果は、テスト担当者が期待されることを理解していたことを確認することになる
 - c) 正しい。第三者は、優先順位付けのためにこの情報を必要としている
 - d) 正しくありません。検出のフェーズはすでに利用可能であり（システムテスト）、除去のフェーズは（できれば今）不明である
 - e) 正しくありません。システム内の欠陥の位置を決定するのは、テスト担当者の責任ではない
-

問39 : TM-4.4.1 (配点 1点)

解答

b

解説

- a) 正しくありません。導入のフェーズは有用かもしれないが、検出と除去の情報は欠陥導入の低減には有用でない
 - b) 正しい。現在どこに欠陥が導入されているかがわかるので、今後の欠陥導入を防ぐための活動のターゲットにできる
 - c) 正しくありません。これは、特別なテストが必要なコンポーネントに的を絞るための欠陥クラスタリング情報に使用されますが、欠陥の防止に直接役立つものではありません。
 - d) 正しくありません。これは、欠陥の除去の効率性を示すものであり、欠陥の発生を抑制することには役立ちません。
-

問40 : TM-5.2.1 (配点 1点)

解答

a,d

解説

- a) 正しい。シラバスのsector. 5.2
 - b) 正しくありません。シラバスに抵触する
 - c) 正しくありません。シラバスと矛盾する
 - d) 正解です。シラバス(Syllabus sect. 5.3
 - e) 正しくありません。誤った結論
-

問41 : TM-5.3.1 (配点 3点)

解答

a,c

解説

- a)は正しい。IDEALプロセスの5番目のステップである
 - b) 正しくありません。IDEALプロセスの第1段階であり、すでに実施されている
 - c) 正しい。IDEALプロセスの3番目のステップです。
 - d) 正しくありません。これは IDEAL プロセスの第 2 ステップであり、すでに実施されている
 - e) 正しくありません。あなたの組織がTMMiに従ったのは当たり前ではない
-

問42 : TM-5.4.1 (配点 1点)

解答

c

解説

- a) 正しくありません。シナリオの情報では、これほど高くはないでしょう。
 - b) 正しくありません。シナリオの情報に基づいて、あなたがこれほど低いとは考えにくいです。
 - c) 正しい。TMMiはCMMiをサポートしており、貴社が選択したものである
 - d) 正しくありません。関係ない内容です。
-

問43 : TM-5.5.1 (配点 1点)

解答

b

解説

- a) 正しくありません。改善目標がマトリクスに表示されていない
 - b) 正しいです。[TPI Next®ブックP.50] です。
 - c) 正しくありません
 - d) 正しくありません
-

問44 : TM-5.6.1 (配点 1点)

解答

b

解説

- a) 正しくありません。TMMiに適用されます。
 - b) 正しい。CTPは、業界平均に対して組織をベンチマークするために指標を使用している
 - c) 正しくはない。これは、TPI-Nextに適用される
 - d) 正しくない。評価はCTPモデルの範囲に含まれるが、（それを行うコンサルタントを除けば）目的ではない。
-

問45 : TM-5.7.1 (配点 1点)

解答

c

解説

- a) 正しくありません。OKだが、シナリオに要件が記載されていない
 - b) 正しくありません。シナリオに設計上の問題点が記載されていない
 - c) 正しい。"テストが遅れている"に当てはまる
 - d) 正しくはない。欠陥は分類されているので、OKだが、すでに終わっている
-

問46 : TM-6.2.1 (配点 1点)

解答

d

解説

- a) 正しくありません。なぜなら、あなたはツールを適合させる必要があり、ライセンス条件によっては、適合させたものの権利をオープンソースコミュニティに与えるかもしれないからです。
 - b) 正しくありません。通信規格に準拠する必要があるので、これは妥当な懸念である。
 - c) 正しくありません。これは、あなた自身の特定の目的（それが元々カスタムツールを持つ理由です）があるため、正当な懸念です。本来の目的からかけ離れすぎていませんか？
 - d) 正しい。オープンソースのツールは修正可能であり、先にカスタムツールを作っていたあなたにはその能力があるのだから、適応が難しいということは気にする必要はないだろう。
-

問47 : TM-6.2.2 (配点 2点)

解答

b

解説

- a) 正しくありません。この回答は、既製のツールを使用することを示唆しているが、標準的なコンプライアンスは、より多くの労力を要するかもしれないが、カスタムビルドツールでも満たすことができる。
 - b) 正しい。会社のハードウェア事業部は、ハードウェアを頻繁に変更する（6ヶ月に1回）。
 - c) 正しくはない。これは前提条件ではあるが、理由にはならない
 - d) 正しくありません。カスタムメイドのツールを維持することは魅力的だが、そのツールの使用と保守に費やす多大な時間を正当化できないし、ステムは使いやすさには言及していない
-

問48 : TM-6.2.3 (配点 2点)

解答

c,d

解説

- a) 正しくありません。一般的に確認するのは良いことですが、あまり重要ではありません。
 - b) 正しくありません。一般的に確認する良いポイントですが、あなたの大きな関心事ではありません。
 - c) 正しい。そのツールは、あなたの技術的なニーズすべてに対して十分ではない可能性を考慮する必要がある、たとえそれがいくつかの技術的なニーズにとってより速くなるとしても
 - d) その通りです。既存の膨大な数のテストについて考える必要があり、またROIの懸念もあります。
 - e) 正しくありません。一般的に確認するには良いポイントですが、あなたの主な関心事ではありません。
-

問49 : TM-6.3.1 (配点 1点)

解答

b

解説

- a) 正しくありません。古いツールは廃棄されるため、この活動は必要ありません。
 - b) 正しい。既存のスクリプトがたくさんあり、回帰テストスクリプトが最も頻繁に使用されるため、この回答は引退に関するものです。
 - c) 正しくありません。古いツールは引退するため、この活動は必要ない
 - d) 正しくありません。回帰テストスクリプトだけで対応できるのであれば、すべてのスクリプトを交換するのは現実的ではない
-

問50 : TM-6.4.1 (配点 1点)

解答

b

解説

- a) 正しくありません。テストはすべて同じ機能領域である可能性があるため、それ自体では何もわからない。しかし、テスト実行の測定は、これで簡単になります。
 - b) 正しい。この指標は、リリース期限に間に合わせるために必要な要件を十分にカバーしているかどうか、また、一部の領域でカバーしすぎていないかどうかを自動的に教えてくれます。
 - c) 正しくありません。コンツェルンのパフォーマンステストツール
 - d) は正しくありません。これは、時間の収集を容易にするのに役立つかもしれませんが、それだけでは役に立ちません。時間が問題として挙げられているので、この選択肢につながるかもしれません。
-

問51 : TM-7.2.1 (配点 2点)

解答

b

解説

- a) は正しくない。どちらも、スクリプトを書くために必要なコードを書くことができません
 - b) 正しい。コーディングスキルは実際のスクリプト作成に必要であり、デザインスキルはキーワード駆動型フレームワークの優れた設計を保証するために非常に有用である
 - c) 正しくありません。どちらも、スクリプトを書くために必要なコードを書くことができない
 - d) 正しくありません。どちらもコードを書くことができないので、スクリプトを書くのに必要である
-

問52 : TM-7.2.2 (配点 3点)

解答

a,d

解説

- a) は正しい。採用の際には、弱みと強みのバランスを取る方法を探すべきだ
 - b) 正しくありません。テスターの一部または全員がすでに資格を取得していることは分かっているし、さらに、最も重要なスキルの弱点がテストの分野であることを示すものはない
 - c) 正しくありません。これは極端なステップであり、チームが失敗している、または失敗していると思われるという情報はない。
 - d) 正しい。効果や効率に最も影響を与える弱点に早急に対処する必要がある。
 - e) 正しくありません。現在、強みがあるところに弱みを作ることは、あまり望ましい解決策ではありません。
-

問53 : TM-7.3.1 (配点 1点)

解答

a,b

解説

- a) その通りです。2人の新しいチームメンバーを迎え、期間も短いので、できるだけ早くチームに溶け込ませる必要がある
 - b) その通りです。チームメンバーは自分が評価されていると感じれば、より多くの貢献をする可能性が高くなる
 - c) 正しくありません。チームメンバー全員を同じように扱い、すべての仕事をチーム内で分担すると、チームメンバーごとに異なるスキルを最大限に活用することができない
 - d) 正しくありません。チームリーダーであるあなたは、チームメンバーとは異なる責任（と推定されるスキル）を持っているので、あなたは管理に、彼らはテストに時間を使う方が良いのです。
 - e) 正しくありません。テスターにもっと自律性を与え、彼らがもっと効率的に時間を管理できるようにするのが良い方法です。
-

問54 : TM-7.4.1 (配点 1点)

解答

b

解説

- a) 正しくありません。システムテストは銀行の専門家だけで行われる：誰がWebサービスをテストするのか？
 - b) 正しい。技術面は開発者が、機能面は社内テスターとドメインエキスパートが、国際化は社外エキスパートが担当する。
 - c) 正しくありません。コンポーネント統合テストはない。国際化テストの知識もない。
 - d) 正しくありません。国際化テストの知識がない
-

問55 : TM-7.5.1 (配点 1点)

解答

b

解説

- a) 正しくありません。これはシラバスからモチベーションを上げる行動です
 - b) 正しい。そして、このシナリオでは、成果物が顧客の期待に応えていないため、おそらく低品質であると認識されているのです。
 - c) 正しくありません。これは、シラバスからモチベーションを上げる行動である
 - d) 正しくありません。これは、シラバスからモチベーションを上げる行動です。
-

問56 : TM-7.6.1 (配点 1点)

解答

b

解説

- a) 正しくありません。上層部は詳細な欠陥報告書を見たがらないだろう
- b) 正しい。新しいアウトソーシングの場で信頼を築くには、外交と客観性が重要である。レビューは、社内チームの知識をオフショアチームに伝える建設的な手段である
- c) 正しくありません。上層部は根本原因の調査に関与したがらないだろう
- d) 正しくありません。オフショアチームだけでは、根本的な原因を見つけることはできない。